

会議録

会 議 の 名 称	第1回加東市総合戦略策定推進会議
開 催 日 時	平成29年7月14日（金）午前9時30分から午前11時25分まで
開 催 場 所	加東市滝野図書館 3階 会議場
議長の氏名（座長 庭瀬敬右） 出席及び欠席委員の氏名 ＜出席委員＞ ・庭瀬敬右 ・西山芳博 ・大西淳司 ・生頼和也 ・多田実乗 ・田中秀和 ・田中博美 ・中山江津子 ・新谷浩三 ・長谷川智子 ・藤井良憲 ・別府みどり ・本山早苗 ・吉田実宏 ＜欠席委員＞ ・中野剛志	
出席した市の職員（事務局等）の氏名及びその職名 ・市長 安田正義 ・地域創造部長 中村隆文 ・地域創造部まち未来課長 小林勝成 ・地域創造部まち未来課副課長 藤原英樹 ・地域創造部まち未来課主幹 時本大作 ・地域創造部まち未来課主事 新庄善文 ・地域創造部まち未来課主事 久後翔平	
説明者として出席した市の職員（事務局以外） ・協働部企画協働課長 長谷川 茂 ・協働部防災課長 肥田繁樹 ・総務部総務課副課長 原田幸広 ・市民生活部生活課副課長 井澤彰子 ・市民生活部健康課長 細川公代 ・福祉部子育て支援課長 壺井初美 ・地域創造部農林課長 柏木和博 ・地域創造部商工観光課長 田中孝明 ・まち・農整備部地域整備課長 大橋勝彰 ・教育委員会学校教育課主幹 藤原良二 ・発達サポートセンター課長 山本京子 ・発達サポートセンター主幹 篠田玲子 ・教育委員会生涯学習課長 芹生和也 ・教育委員会生涯学習課主事 神崎秀俊	
1 議 題 (1) 座長・職務代理者の選任 (2) かとう未来総合戦略の評価・検証及び総括について (3) その他 次回の会議の日程について 2 会議資料 【資料1】加東市総合戦略策定推進会議設置要綱 【資料2】総合戦略における評価の考え方 【資料3】1次評価（内部評価）を踏まえた今後の方向性 【資料4】かとう未来総合戦略 総括シート 3 会議の経過 ⇒別紙「第1回加東市総合戦略策定推進審議会・会議の経過」のとおり	
平成 29 年 8 月 10 日 座 長 庭瀬敬右 職務代理者 西山芳博	

(別紙) 第1回加東市総合戦略策定推進会議・会議の経過

発言者	会議の経過 / 発言内容
事務局	1 開会 ○資料の確認 2 市長挨拶 3 座長・職務代理者の選任 ○事務局一任により、事務局案にて座長に兵庫教育大学教授の庭瀬委員を推薦。一同承認。
座長	<座長挨拶> ・座長を務めさせていただく。不慣れな点多々あると思うが、よろしくお願いしたい。 ・本日の協議事項は「かとう未来総合戦略の評価・検証及び総括について」となっている。地球温暖化による気候変動の中、住む人の安全が重要な課題となっているが、一方で日本は少子化に向かっており、特に地方は生き残りの努力が必要である。加東市も居住者にとっての魅力の創出に向けて、前回の総合戦略を策定し、会議には私も参加した。今回も良い総合戦略を策定すること、そして、それを広く発信することが重要である。 ・本日はこの3年間、市が取り組んできた施策に関する評価の確認、また新たな施策に対する意見を頂く。忌憚のない意見を頂いて、次の施策に反映できればと思う。 ○座長の指名により、職務代理者に加東市多井田区長の西山委員を推薦。一同承認。 ○「加東市総合戦略策定推進会議設置要綱」第5条第2項の規定により、庭瀬座長が議長を務める。
座長	4 協議事項 「かとう未来総合戦略の評価・検証及び総括について」 ○資料2、資料3、資料4について事務局より説明 【質疑応答等】 ・総合戦略には基本目標①～③があり、例えば、基本目標①には施策1～4があり、それぞれの施策に対して一次評価が出ている。 ・それぞれ数値目標が出ているので、それを1つの指標として評価していただく。 ・評価は「A：十分な事業効果がみられる」「B：事業効果がみられる」「C：一部の事業取組に改善が必要」「D：事業の取組に大幅な改善が必要」となっており、AとBは現行の取組の方向性で良いという評価、CとDは新たな体系等に変更してより良いものにするという評価である。その一次評価を検証し、二次評価を決定していただく。
委員	基本目標① 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかえなる ◆ 施策1 結婚の応援「結婚の契機となる場の創出及び結婚生活の支援」 ・施策1のKPI(重要業績評価指標)は「婚姻率」で、成果、課題、今後の方向性が挙げられ、一次評価は「B」となっている。 ・「社会増減で人口が増えた」「婚姻率も目標を達成した」という結果から評価「B」となっているが、婚活イベントや婚活セミナー、結婚生活応援の施策の効果が、人口増や婚姻率の達成につながったのかどうかは分からない。それ以外の要因で目標を達成したということも否めないもので、全体的に施策と成果が結びつい

座長 事務局	ているのかどうか、懸念される。 ・人口等に関しては出生率の評価やKPIでも出ていると思う。 ・実際に数字は上昇しているが、それを見て評価したものではない。婚活イベントでは毎回カップル成立の実績があり、それが婚姻率上昇等に直接結びいているかどうかは判断し難いが、実施した事業の結果に基づいて純粹に「B」と評価した。
座長	・結婚によって外から人が入ってくる、子どもが生まれる等で人が増えるので、それに対して効果が考えられるということである。これで良いか。（異議なし） ・それでは、二次評価は「B」と決定する。
座長	◆ 施策2 出産子育て支援の充実「出産及び子育て世代の支援」 ・施策2のKPIは「未就学児童率」で、一次評価は「B」である。この施策に対して意見はあるか。（意見等なし） ・それでは、二次評価は「B」と決定する。
座長	◆ 施策3 教育環境の充実「小中学生の教育支援及び教育環境の良さのPR」 ・施策3のKPIは「小中学生が将来の夢や目標を持っている割合」で、一次評価は「C」で一部の事業取組に改善が必要と判定されている。 ・今後の方向性に「発達サポートセンターにより、発達障害等に対する市民の理解を深めながら、インクルーシブ教育の推進を図る」とあり、兵庫教育大学も連携する。
委員	・兵庫教育大学との関わりを具体的に知りたい。小学校高学年は夏休み期間中に兵庫教育大学の学生に勉強を教えてもらえる機会があるという連絡があったが、5、6年生だけが対象なのか。市内に教育大学があることを活かして、さらに具体的な取組があれば知りたい。また、全国に対する教育レベルの評価が低いと感じるので、もう少し全国レベルまで上がらないのか。
教育委員会	・兵庫教育大学と連携した取組は、インクルーシブ教育で障がいがある子どもと障がいのない子どもが一緒に学ぶこと、または障がいの認定はなくても何かの支援を要する子どもに対してどのような教育が適切か等について、大学の先生や心理士等から学校教育の中で、より充実した教育を進めるために専門的な助言を得ている。 ・助言については研修・講話・講義という形で教員全体の資質向上に活かす。また、個々のケースに応じて子どもの様子を直接見て適切な教育をアドバイスしてもらう機会もある。さらに、インクルーシブ教育については発達サポートセンターの中で子ども、保護者に対する相談も受けている。 ・子どもの自習体制を支える5、6年生の授業については、小学校高学年の子どもが夏休み中に自分で課題を見つけて勉強する自主的な学習を支える目的で、各小学校に対して約2時間×5日間で設定している。さらに、放課後の学習プランとして平日でも子どもたちの自主的な学習を支える仕組みも作っているところである。 ・中学生に対しては、初めての受験に向かう中学3年生が皆で学習することで受験を乗り越えられるよう、冬休みに自習室を設定している。自分で課題を決めて2時間程度、30分、45分のルーティンで学習する。 ・小学校低学年の子どもは家庭学習の習慣づけから始める。 ・教育のレベルについては、全国と比較しても兵庫県全体でも大差はないと思っているが、インクルーシブ教育、体験教育、そしてキャリア教育と称して将来を考えた教育を一層充実し、子どもたちに魅力ある教育を提供しなければならないと強く考えている。
座長	・兵庫教育大学は加東市の一員として連携していく。 ・他に意見がなければ、今後の方向性に挙げられているような内容でより良いものにしていく必要があるということで、二次評価も「C」で良いか。（異議なし） ・それでは、二次評価は「C」と決定する。
座長	◆ 施策4 定住化の促進「若い世代及び働く世代の定住を促す住宅確保の支援」 ・施策4のKPIは「支援制度を利用して市内転入した人数」で、総合評価の一次評価

委員	は「C」である。 基本目標①が「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」なので、施策4も若い世代や働く世代の定住を促す施策となっているが、南山周辺はシルバー世代が多く、会社を定年して大阪や神戸から来られている人も多い。若い世代の定住促進は必要だが、シルバー世代の定住化に関する具体策があれば伺いたい。
事務局	加東市の総合戦略では若い世代の定住に特に力を入れており、それによって空き家の補助金等の制度が整備されたら、その都度、シルバー世代にも波及していくという考え方で、まずは若い世代に力を入れていきたいと考えている。
委員	- 補助金制度の支援は所得条件の関係であまり伸びなかったようだが、空き家問題は全国的に広がっている。空き家が拡大する前に空き家に入ってもらえるように支援を充実した方が防災面からも良いし、評価も良くなるのではないかと。 - 昨年、㈱トッパンコミュニケーションプロダクツでは滝野工場に150名が転勤して来たが、皆、播磨地区の事情を知らないでどこに住めば良いかで悩んでいた。私も大阪から転勤して来た時はどこに住めば良いか分からず、先に来ていた人が小野市に住んでいたのもそれに倣った。加東市も空き家を活用するとアピールポイントになるのではないかと。
事務局	- 空き家対策も重要なミッションなので、平成28年度に実態調査を行い、危険な空き家と有効活用できる空き家に分けて抽出し、有効活用できる空き家については、所有者の意向もアンケートを取った上で平成29年4月から空き家バンクの制度を改正して新たにスタートした。アンケート調査で空き家バンクに興味を持った人を個別に訪問して資源を増やしたり、空き家を改修した場合の補助金制度も市内で統一し、それまで除外していた社の市街化区域にも補助が出るようにした。 - しかし、それによって劇的に活用が増えたわけではなく、やはり情報発信が重要である。そのため、平成29年度からアプリを開発し、今は加東市の良いところを情報発信しているが、将来的に空き家情報を流して物件を探している人も活用できるように制度設計しているところである。やはり、美味しい店やお勧めの住宅物件等の情報があふれているまちが住みよいまちだと考えられるので、シティプロモーションに力を入れていきたい。
座長 委員	- 今後、PR活動が必要ということで一次評価「C」になっていると思う。 - 住宅取得支援制度は制限が厳しいので利用者が少ないと言われたが、制度そのものをどのくらいの人知っているのか。知っている人が少ないのではないかと。 - また、積極的なPRとして、市外に対してどのくらいPRできているのか。シルバー世代が転入しているという話があったが、そういう人々に対しては別のところから話が来ているのではないかと。私は勤務の関係で2000年から2003年まで加東市に住んでいたが、その時に住みやすかったのも最近また戻ってきた。そのように住めば良さが分かるが、PRが不足しているのではないかと。神戸や大阪にはPRしているのか。定年後に来られた人は「自然の豊かなところに住みたい」と考えて来られたと思うが、そういう方も含めてもう少しPRできると良いと思うので、市外に対するPRについても伺いたい。
地域整備課	- 地域整備課では空き家の活用、今年度から働く世代の住宅取得支援制度を始めている。所得制限は、夫婦の所得が年間400万円となっている。 - PRについてはホームページ等で情報提供しており、現在は不動産業者や住宅メーカーにもチラシを持参して個別にPRしている。ただ、それが市外の人にどこまで伝わっているかは検証していないので、市外の大手住宅メーカーへ個別にPRする必要があると考えており、現状はまだまだ情報発信が必要である。
座長	- 今後もPRが必要であり、一次評価はKPIも数値的に課題があるということで「C」となっているが、二次評価も「C」でよいのか。（異議なし） - それでは、二次評価は「C」と決定する。 - 以上で基本目標①の各施策における二次評価が決定した。 【基本目標② 時代にあった地域をつくり、交流を促進する】 ○資料4 P13～ 基本目標②の各施策について事務局より説明

座長	◆ 施策1 まちづくり拠点の創出「新たな交流拠点の創出、中心市街地活性化」
委員	・ 施策1のKPIは「新たな交流拠点の創出」でBioの多目的ホールにより達成率100%となっている。一次評価は「B」である。
事務局	・ Bioの多目的ホールを改修して皆が集まる場を創出し、私が活動している団体もそこを利用しているが、活動拠点をつくっていただいて皆喜んでいる。ただ、我々は子育て世代の母親と子ども、乳幼児に来てもらえるイベントを企画しているので、同様の企画をしている加東市外の人たちにも使ってもらえるようにPRされると活動が広がっていくと思う。他市にPRする施策はあるのか。
委員	・ Bioの2階の多目的ホールについては、加東市の拠点としてだけではなく、北播磨の拠点になることを考えている。そういう意味で、市外の方にも積極的に利用していただきたいし、現在、西脇市や小野市の方からの利用の話もある。PRとしては、まず地域活動等のつながりを作って、そこから周辺にくちコミで情報を伝えていただいて裾野を広げたいと考えており、いろいろな団体と接触を図っている。
座長	・ 今まで事務所でやっていた会社の「お誕生日会」であの場所を使うようになった。我々は従業員が約250人いるので「誕生日会」で誰でも1年に1回は注目されて顔を覚えられる機会になっている。そういうことを地道に続けていくと、例えば、少年野球をしている子どもの親が子どもたちの集まりにその場所が使えると分かるし、SNSを使って拡散してもらえるように話している。
座長	・ 拠点ができて、それをいかに情報発信し、活性化していくかということが今後の課題なので、現在の活動を継続していくということで一次評価「B」と同じく、二次評価も「B」でよいのか。（異議なし）
座長	・ それでは、二次評価は「B」と決定する。
座長	◆ 施策2 公共交通の充実「地域連携強化のための公共交通ネットワークの充実」
座長	・ 施策2のKPIは「JR加古川線乗客数」と「交通手段の確保に対する満足度」で総合計画のアンケートの中で調査を予定している。一次評価は「B」である。
座長	・ 意見がなければ、そのまま施策を進めていくということで、一次評価のまま二次評価も「B」として良いか。（異議なし）
座長	・ それでは、二次評価は「B」と決定する。
座長	◆ 施策3 交流の促進「加東市PRの展開及び新たな交流活動の創出」
座長	・ 施策3のKPIは「ふるさと納税件数」と「交流イベント参加人数」で、一次評価「B」となっている。
委員	・ 基本的に問題ないと思うが、ゴルフ場に地元の産品を置いているのは成果があるのか。ゴルフ人口が減っているが、加東市にはゴルフ場が多いので、加東市だけで見た場合、利用者は増えているのか。
商工観光課	・ ゴルフ場のPRの成果については、平成26年度に商工会が実施したGAP調査で、兵庫県に隣接する県の住人で加東市を知っている、かつ加東市のことを聞いたことがある人の中で「ゴルフのまち」と回答した人が9%だったことから「ゴルフのまち」として認知されていると感じている。また、ゴルフ場における地元産品の販売も売上が伸びていると聞いているので、その点もPRにつながっていると思う。
委員	・ ゴルフ人口については、平成28年度はゴルフ場の利用人口がかなり減っている。三木市も同じような状況と聞いているが、一番大きな原因は今年の1月から3月の天候不順だと思われる。ただ、ゴルフ人口を支えていた団塊世代が高齢化してゴルフから引退していく中で、どう対策するかがこれからの課題だと考えている。
委員	・ ゴルフは一例として挙げたが、そこを通じて上手く県産品をPRする必要がある。ゴルフは地元の人よりも大阪や神戸から来る人が多いと思うので、PRに活用できる場になると思う。
座長	・ ゴルフと特産品を含めて両方でPRできればと思う。
座長	・ 他に意見がなければ、継続的にPRを進めていくことで、一次評価と同じく二次評価も「B」評価で良いか。（異議なし）
座長	・ それでは、二次評価は「B」と決定する。

座長	◆ 施策4 地域基盤の充実「安全・安心に暮らせる地域の基盤づくり」 ・施策4のKPIは「防犯対策の満足度」と「医療体制の満足度」で、アンケートの数値はまだ出ていない。一次評価は「B」となっている。 ・意見がなければ、一次評価と同じく二次評価も「B」として良いか。（異議なし） ・それでは、二次評価は「B」と決定する。 ・以上で基本目標②の各施策における二次評価が決定した。 【基本目標③ 市内にしごとをつくり、安心して働けるようにする】 ○資料4 P25～ 基本目標③の各施策について事務局より説明
座長 委員 商工観光課	◆ 施策1 雇用対策の充実「若い世代の就職支援及び市内企業の人材確保の支援」 ・施策1のKPIは「雇用の確保の取組に対する満足度」で一次評価は「D」である。 ・雇用対策は難しく、北播磨県民局でも成果が出ていない。就職説明会や県内企業と連携した情報交換会等を行っているが、有効な手段が出てこない。市内で就職する学生に対する説明会等、学校へのアプローチは行っているのか。 ・今年の9月にハローワークや県民局と同等の形で就職説明会を加東市で開催するよう計画している。アプローチとしては大学に直接依頼に行く予定であり、依頼先の大学は、近隣高校の卒業生が多く進学した大学を中心に考えている。 ・市と県民局が連携してできることはやっていきたいのでよりしくお願いしたい。 ・課題に「企業の求める人材と、就職希望者が考える就職先のイメージの乖離」とあるが、具体的にはどういうことか。 ・地元に戻りたいと思っても、地元の良い企業がないから戻ることを諦める学生が多いと聞いている。加東市には凸版印刷㈱をはじめとして上場企業が多く、中小企業でも部門的に日本や世界のトップクラスの企業もある。そういう企業のPRが上手く学生に伝わっていないことが地元の就職につながらない要因だと思うので、そういう部分を「乖離」と表現している。 ・人口増のためには市内に仕事をつくって安心して働けるよう、また移住したいと思えるようにすることも大切なので、新たな施策を考えるということで、事業の取組に大幅な改善が必要として一次評価「D」のままで良いか。（異議なし） ・それでは、二次評価は「D」と決定する。
座長	◆ 施策2 起業の促進「新たな働く場の立上げの支援」 ・施策2のKPIは「起業者件数」で、一次評価は「C」となっている。働く場をつくるという施策である。 ・場をつくっても継続できなければ、継続的な就職にならないので、健全な経営の維持に向けた支援の必要性が課題となる。 ・意見がなければ、一次評価「C」と同じく「C」評価で良いか。（異議なし） ・それでは、二次評価は「C」と決定する。
座長 農林課	◆ 施策3 農業の活性化「農業の人材確保の支援」 ・施策3のKPIは「農業関連事業の従事者数」と「農産物販売経営体数」で、一次評価は「C」となっており、一部の事業取組に改善が必要とされている。 ・今後の方向性として「地域の営農形態に見合った農作物」と書かれているが、加東市に見合った営農形態はどのようなものと考えているのか。 ・加東市の農業は大半が米作という営農形態であり、特産である「山田錦」を中心とした米作を今後も進めていく。ただ、生産調整等、減反政策で別の作物を作ると交付金が出る制度の中で、加東市は小麦や大豆を集落営農で作ってきた。この形は今後も継続してもらいたいと考えている。
座長	・他に意見がなければ、一次評価は「C」で一部の事業取組に改善が必要となっているが、二次評価も「C」で良いか。（異議なし） ・それでは、二次評価は「C」と決定する。 ・以上で全11施策の二次評価はすべて終了した。

座長 委員	◆ 全体について
事務局	・ 本日の協議を通して、内容に関する質疑や次期計画策定に関する意見はあるか。 ・ 基本目標①②③は連動する形で考えられていると思うので、まず、若い人が結婚して加東市に住み、子どもが生まれて人口が増え、その子どもが成長して市内の学校に通い、就職するという連動する流れで捉えて、一体的に考えたもっと大きなビジョンを入れた方が良いと思う。
座長	・ 当然、そのような考え方に立って策定するので、次回の会議では次期総合戦略の素案を提示する。その中でそのような考え方、スキームは記載する予定である。 ・ その他に意見はないか。（意見等、なし） ・ これ以降に意見がある場合は、意見書に記入の上、7月21日(金)までに事務局へ提出をお願いしたい。
	5 その他
座長	◆ 次回の会議の日程について ○次回の日程について事務局より説明、及び調整 → 10月6日(金)午後から開催 ⇒後日、委員からの申し出により10月6日（金） <u>午前</u> からの開催へ変更 ・ 以上で本日の協議事項を終了する。
	以 上